

古典



三省堂

■(一)案内

教科書の特色……………1

古典編……………2

教科書タイジェスト……………4

指導書・教材……………22

デジタル教科書……………24

*この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。

古A 306

三省堂版 国語教科書

★印は平成29年度新刊, ☆印は平成30年度新刊です。

<p>★ 国語総合</p> <p>★ 高等学校国語総合 古典編「改訂版」 A5判/192ページ 国総 337</p>	<p>★ 精選国語総合 「改訂版」 A5判/400ページ 国総 338</p>	<p>★ 明解国語総合 「改訂版」 A5判/360ページ 国総 339</p>
<p>☆ 現代文B</p> <p>☆ 高等学校現代文B 「改訂版」 A5判/440ページ 現B 323</p>	<p>☆ 精選現代文B 「改訂版」 A5判/408ページ 現B 324</p>	<p>☆ 明解現代文B 「改訂版」 A5判/372ページ 現B 325</p>
<p>☆ 古典B</p> <p>☆ 高等学校古典B 古文編「改訂版」 A5判/260ページ 古B 333</p>	<p>☆ 高等学校古典B 漢文編「改訂版」 A5判/184ページ 古B 334</p>	<p>☆ 精選古典B 「改訂版」 A5判/372ページ 古B 335</p>
<p>現代文A</p> <p>現代文A B5判/144ページ 現A 303</p>	<p>古典A</p> <p>古典A B5判/144ページ 古A 306</p>	

古典A編集委員

中 刈 正 堯 兵庫教育大学名誉教授

三 浦 和 尚 愛媛大学

伊 坂 淳 一 千葉大学

太 田 亨 愛媛大学

桑 原 博 史 筑波大学名誉教授

斎 藤 貞 博 元東京都立深川高等学校

★三省堂教科書・教材サイト

<http://tb.sanseido.co.jp>

三省堂国語教科書

検索



三省堂

☎101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14 ☎03(3230)9411(編集)・9556(営業)

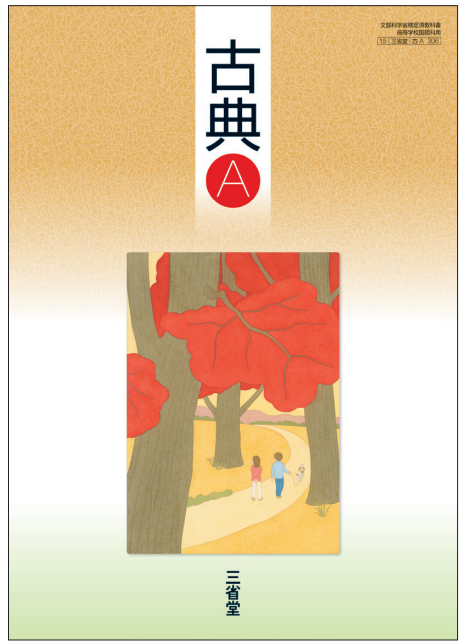
●大阪支社 ☎530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3 ☎06(6341)2177

●名古屋支社 ☎460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31 協和丸の内ビル2F ☎052(953)9211

●九州支社 ☎810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 ☎092(531)1531・1532

●札幌営業所 ☎060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル 3F ☎011(616)8722

古典 A



古 A 306 B5 判・144 ページ

古文 20 教材
漢文 13 教材

教科書の編集方針

- 1 国語学習の基礎・基本を重視し、実生活に役立つ国語の力を獲得する。
- 2 さまざまなものの見方、考え方にふれ、幅広い人間性を育てる。
- 3 言語文化の諸側面を取り上げ、日本の伝統的な文化に親しむ態度を養う。
- 4 日常生活において適切に表現し、伝え合う力を身につける。

教科書の特徴

古文編・漢文編

古典のおもしろさを味わい、言葉への理解を深める古文編・漢文編

- 古文は、説話の代表的な作品を配列。短く簡潔で、興味深く読めるものを厳選しました。
- 漢文は、思想・漢詩・史伝を配列。現代とのつながりについて考えることができるものを厳選しました。

コラム

古典の世界に親しむコラム

- 古典の魅力や現代とのつながりについて解説したコラムを随所に設けました。

指導書・教材

指導に役立つ資料と学習を助ける教材類

- 指導書には、教材研究や評価に活用できる資料はもちろん、ワークシート・テスト問題・補充教材などを豊富に収録しました。



古文編

イントロダクション

宇治拾遺物語

蜂飼いの大臣(古事談)

恵心僧都の母(発心集)

百鬼夜行

観音になった男

古文のとびら① 説話のおもしろさ

呪いを知らせた犬

絵仏師の執心

古文のとびら② 芥川龍之介と説話

●古典に関連した近代の文章を読もう

地獄変(芥川龍之介)

夢を買う

袴垂と保昌

後の千金

古文のとびら③ 説話と中国の故事

応天門炎上

歌詠みの徳

古文のとびら④ 絵巻のいろいろ

絵師と大工

玄象の琵琶

姨母捨山

古文のとびら⑤ 古典の中の「同じ話」

武士の祭り見物

十訓抄

笛吹き成方

行成と実方

古文のとびら⑥ 説話の登場人物

義家と宗任

女盗賊

相撲の勝負

古今著聞集

イントロダクション

漢文編

塞翁が馬(淮南子)

朝三暮四(列子)

杞憂(列子)

漢文のとびら① 今に生きる故事成語

孔子の人となり

孔子と政治

大道廃れて、仁義有り

天下水より柔弱なるは莫し

渾沌

漢文のとびら② 孔子ってどんな人？

竹里館

峨眉山月歌

臨洞庭

登高

漢文のとびら③ 李白と月

三たび往きて、乃ち見る

三國志

論語

老子

莊子

漢詩

資料編

古典参考資料

古典文法要覧

本書で学ぶ古文の基本単語

漢文の読み方

覚えておきたい故事成語

旧国名・都道府県名対照図

平安京条坊図・内裏・大内裏

春秋時代要図・戦国時代要図

…本内容解説資料で紹介するページ

古典と現代とのつながりに着目した教材配列

地獄変

芥川龍之介

絵仏師の執心

宇治拾遺物語

28

25

覚えておきたい故事成語

143

142

実生活に役立つ資料

蜂飼いの大臣

古文は、説話の代表的な作品から、短く簡潔で、興味深く読めるものを厳選して収録しました。

古事談

1 京極の大相国、蜂を飼ふこと、世もつて無益のことと称す。

世間の人は役にたたないことだと言っていた

2 さて五月のころ、鳥羽殿において蜂の巣にはかに落ちて、

突然落ちて

3 御前に多く飛び散りければ、

飛び散ったので

人々も刺されじとて逃げ騒ぎけるに、

4 相国、御前に枇杷のありけるを一房取りて、

枇杷があったのを

5 琴の爪にて皮をむきて、差し上げられたりければ、

(高く)差し上げられたところ

蜂、ある限り付きて散らざりければ、

6 付きながら、供の人を召して、やはら賜ひけり。

(蜂が)付いたまま

静かに手渡された

7 院も、「賢く宗輔が居り申し候ひて。」と仰せられて、

都合よく宗輔がいてくれて

感ぜしめたまひけり。

(第九二 京極の大相国宗輔、蜂を飼ふこと)

学びの道しるべ

一 前後のつながりを考えて、現代語に直そう。

① 人々も刺されじとて逃げ騒ぎけるに (6・4)

② 蜂、ある限り付きて散らざりければ (6・7)

③ 仰せられて、感ぜしめたまひけり。(7・2)

二 鳥羽殿のできごとを順に書き出し、院が宗輔のどこに感心したのか、簡潔にまとめよう。

三 この話の趣旨はどこにあるか、話し合おう。

④ 「世もつて無益のことと称す」(6・1) という一文が上げている効果を考える。

▼無益 (6・1)

▼やはら (7・1)

▼賜ふ (7・1)

▼賢し (7・2)

▼居り (7・2)

▼候ふ (7・2)

▼仰せらる (7・2)

▼感ず (7・3)

5

◆古事談 源顕兼(二二〇～三三五)編 一二二二年～一二二五年の間に成立。宮廷や貴族、僧侶の説話を多く収録している。本文は『古典文庫 古事談上』による。
【源顕兼】一二二一年に出家し、諸書から材を集めて『古事談』を編纂した。有職故実に精通。

1 京極の大相国 藤原宗輔(二〇七～二六三)。大相国は太政大臣(太政官の最高責任者)の唐名。
2 鳥羽殿 現在の京都市伏見区にあった白河、鳥羽両上皇の離宮。
3 御前 鳥羽院の御前。「鳥羽院」は第七十四代鳥羽天皇(二〇三～二二五、在位二〇七～二三三)。退位後、一二二九年から二十七年間、強力

な院政を行った。
4 相国 京極の大相国のこと。
5 枇杷 植物のびわ。
6 琴の爪 琴を弾くときに指先にはめる道具。
7 院 鳥羽院のこと。



びわの実

絵仏師の執心

近代文学の素材となった作品を収録。古典に親しみを感じるとともに、現代とのつながりについて考えながら読むことができるようになりました。

宇治拾遺物語

これも今は昔、^①絵仏師良秀^②といふありけり。家の隣より火出^③で来て、風おしおほひて責めければ、逃げ出でて大路へ出でにけり。人の描かする仏もおはしけり。^④また、衣着ぬ妻子^⑤なども、さながら内にありけり。それも知らず、ただ逃げ出でたるを事に^⑥して、向かひのつらに立てり。見ればすでにわが家に移りて、煙、炎くゆりけるまで、おほかた向かひのつらに立ちて眺めければ、「あさましきこと。」とて、人ども来とぶらひけれど、騒がず。

風がおしかぶ

ほひて責めければ、逃げ出でて大路へ出でにけり。人の描かする仏もおはしけり。

人が(注文して)描かせた(仏画の)仏も

それもかまわず

自分の家に(火が)移って

くゆりけるまで、おほかた向かひのつらに立ちて眺めければ、「あさましきこと。」とて、人ども来とぶらひけれど、騒がず。

「いかに。」と人言ひければ、向かひに立ちて、家の焼くるを見て、うちうなづきて、ときどき笑ひけり。「あはれ、しつるせうとくかな。年ごろは、わろく描

なぜ動じないのか

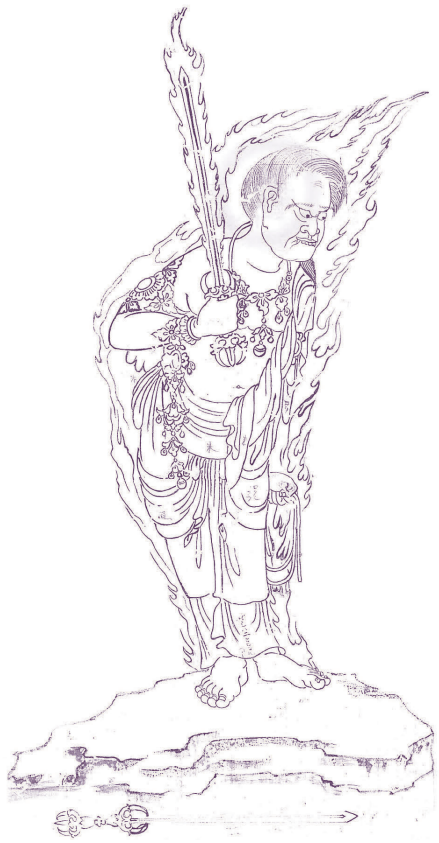
きけるものかな。」と言ふときに、とぶらひに来たる者ども、「こはいかに、かく

これはまあどうしてこの

ては立ちたまへるぞ。あさましきことかな。物のつきたまへるか。」と言ひければ、「^⑤なんでふ物のつくべきぞ。年ごろ、不動尊の火炎をあしく描きけるなり。今見れば、かうこそ燃えけれと心得つるなり。これこそせうとくよ。この道を立てて世にあらむには、仏だによく描き奉らば、百千の家も出で来なむ。わたうたちこそ、^⑥させる能もおはせねば、物をも惜しみたまへ。」と言ひて、あざ笑ひてこそ立てりけれ。

そののちにや、良秀がよぢり不動とて、今に人々めで合へり。

(第三八 絵仏師良秀、家の焼くるを見て喜ぶこと)



伝良秀筆の不動明王像の模写 (醍醐寺所蔵)

① 絵仏師 仏画を描くことを業とする絵師。

② 良秀 伝未詳。

③ 向かひのつら 向こう側。「つらは、並び、列。

④ しつるせうとくかな 「せうとくしつるかな」と同じ。もうけものをしたなあ。「せうとく」は一般に「所得」とするが、「抄徳」「証得」を当てる説もある。得をすることの意。

⑤ 物 ここでは、何かしらの霊を指す。

⑥ 不動尊 10ページ注⑤参照。

⑦ わたうたち おまえたち。「わたう」は「和党」。親しい者や目下の者を呼ぶ語。

⑧ させる能 これといった才能。

⑨ よぢり不動 火炎のよじれ方がみにごとく描かれた不動尊の像。

- ▼ さながら (24 3)
- ▼ すでに (24 4)
- ▼ おほかた (24 5)
- ▼ 眺む (24 5)
- ▼ とぶらふ (24 6)
- ▼ わろし (24 8)
- ▼ めづ (25 7)

課題

- 一 家が火事になっているときに、良秀はどのような行動をとっていたか。その様子がわかる部分を抜き出そう。
 - 二 「あさましきこと」(24・5)、「あさましきことかな」(25・1)は、それぞれ、誰が、何について、どのように感じたことを述べているか。表にしてまとめよう。
 - 三 「この道を立てて世にあらむ」(25・3)とはどういうことか、端的に書こう。
 - 四 この話から、良秀はどのような気性の持ち主であることが読み取れるか、話し合おう。
- 🍷 良秀の言動を追っていく。特に「あはれ、しつるせうとくかな」(24・8)はこの場合、どのような気持ちの表れであるかを考える。

演習

- 一 傍線部の「の」を文法的な意味の違いによって二種類に分けよう。
 - ① 家の隣より火出で来て (24・1)
 - ② 人の描かする仏もおはしけり。 (24・2)
 - ③ 家の焼くるを見て (24・7)
 - ④ 物のつきたまへるか。 (25・1)
- 二 傍線部の係助詞「こそ」に注意して、次の各文を現代語に直そう。
 - ① 今見れば、かうこそ燃えけれど心得つるなり。 (25・3)
 - ② わたうたちこそ、させる能もおはせねば、物をも惜しみたまへ。 (25・4)
- 三 「仏だによく描き奉らば、百千の家も出で来なむ」(25・4)の「だに」のはたらきについて、「すら」「さへ」と比較しながらまとめよう。

内容を読み取るための具体的な学習課題と、そのおもしろさについて話し合う活動を設定し、理解を深められるようにしました。また、演習では、古典の言葉に着目して読むことができるようにしました。

古文のとびら 2

芥川龍之介と説話

近代の小説家芥川龍之介(一八九二年～一九二七年)の「地獄変」という小説は、『宇治拾遺物語』の「絵仏師良秀」家の焼くるを見て喜ぶこと」と、『古今著聞集』の「巨勢弘高の地獄変の屏風を画くこと並びに千体不動尊を画きて供養のこと」が素材になっています。

この小説の、「地獄変の屏風を描いた良秀という絵師」の話を部分は、次のように始まります。

良秀と申しましたら、あるいはただいまでもなお、あの男の事を覚えていらっしゃる方がございましょう。そのころ絵筆をとりましては、良秀の右に出るものは一人もありませんと申されたくらい、高名な絵師でございます。

「地獄変」では、この後、「絵師良秀」の狂気とも思える行動が描かれます。それは、わが娘の命さえ引き換えにするほどの芸術に対するすさまじい執着でした。

芥川は他にも「羅生門」「藪の中」など古典説話に基づく小説をいくつも書いていますが、説話を素材とするのは、次

のような意図があったようです。

今僕があるテーマをとらえてそれを小説に書くとする。そうしてそのテーマを芸術的に最も力強く表現するために、ある異常な事件が必要になるとする。その場合、その異常な事件なるものは、異常なだけそれだけ、今日この日本に起こったこととしては書きこなしにくい。もし強いて書けば、多くの場合不自然の感を読者に起こさせて、その結果せっかくのテーマまでも犬死にをさせることになってしまう。(中略) 僕の昔から材料を採った小説は大抵この必要に迫られて、不自然の障壁を避けるために舞台を昔に求めたのである。 (『澄江堂雑記』より)

古典説話にある不思議な(異常な)できごとやそのおもしろさが、芥川の創作を支えていたのかもしれない。

近代文学と古典作品とのつながりについて解説したコラム。前後の教材と関連づけて読むことで、より古典への関心が高められるようにしました。

地獄変

芥川龍之介

古典作品がもたらした近代文学の一部を掲載。読み比べることで、それぞれのおもしろさや表現の工夫に気づくことができるようにしました。

火はみるみるうちに、車蓋を包みました。ひさしについた紫のふさが、あおられたようにさつとなびくと、その下からもうもうと夜目にも白い煙が渦を巻いて、あるいはすだれ、あるいは袖、あるいは棟の金物が、一時に碎けて飛んだかと思うほど、火の粉が雨のように舞い上がる——そのすさまじさといったらすごいません。いや、それよりもめらめらと舌を吐いて袖格子にからみながら、半空までも立ち昇る烈々とした炎の色は、まるで日輪が地に落ちて、天火がほとばしったようだとも申しましようか。前に危うく叫ぼうとした私も、今は全く魂を消して、ただ茫然と口を開きながら、この恐ろしい光景を見守るより外はございませんでした。しかし親の良秀は——

良秀のその時の顔つきは、今でも私は忘れません。思わず知ら

しゃいます。そうしてその車の中には——ああ、私はその時、その車にどんな娘の姿を眺めたか、それを詳しく申し上げる勇氣は、とうていあるうとも思われません。あの煙にむせんであおむけた顔の白さ、炎を払って振り乱れた髪の毛の長さ、それからまた見るまに火と変わっていく、桜の唐衣の美しさ、——なんというむごたらしい景色でございましたらう。ことに夜風が一下ろして、煙が向こうへなびいた時、赤い上に金粉をまいたような、炎の中から浮き上がって、髪を口にかみながら、いましめの鎖も切れるばかり身もだえをしたありさまは、地獄の業苦を目の当たりへ写し出したかと疑われて、私はじめ強力の侍までおのずと身の毛がよだちました。

(中略)

その火の柱を前にして、凝り固まったように立っている良秀は、——なんという不思議なことでございます。あのさつきまで地獄の責苦に悩んでいたような良秀は、今はいいようのない輝きを、さながら恍惚とした法悦の輝きを、しわだらけな満面に浮かべながら、大殿様の御前も忘れたのか、両腕をしっかりと胸に組んで、たたずんでいるではございませんか。それがどうもあの男の目の中には、娘のもだえ死ぬありさまが映っていないようなので

ず車の方へ駆け寄ろうとしたあの男は、火が燃え上がると同時に、足を止めて、やはり手を差し伸ばしたまま、食い入るばかりの目つきをして、車を包む焰煙を吸いつけられたように眺めておりましたが、満身に浴びた火の光で、しわだらけな醜い顔は、ひげの先までもよく見えます。が、その大きく見開いた目の中といい、引き歪めた唇のあたりといい、あるいはまた絶えず引きつっている頬の肉の震えといい、良秀の心にもごも往來する恐れと悲しみと驚きとは、歴々と顔に描かれました。首をはねられる前の盗人でも、ないしは十王の庁へ引き出された、十逆五悪の罪人でも、ああまで苦しそうな顔をいたしますまい。これにはさすがにあの強力侍でさえ、思わず色を変えて、恐る恐る大殿様のお顔を仰ぎました。

が、大殿様は固く唇をおかみになりながら、時々気味悪くお笑いになって、目も離さずじつと車の方をお見つめになっていららうございます。ただ美しい火炎の色と、その中に苦しむ女人の姿とが、限りなく心を悦ばせる——そういう景色に見えました。

しかも不思議なのは、なにもあの男が一人娘の断末魔をうれしそうに眺めていた、そればかりではございません。その時の良秀には、なぜか人間とは思われない、夢に見る獅子王の怒りに似た、怪しげな厳かさがございました。でございますから不意の火の手に驚いて、鳴き騒ぎながら飛び回る数の知れない夜鳥でさえ、気のせいか良秀の採烏帽子の周りへは、近づかなかつたようでございます。

学習の手引き

- 『宇治拾遺物語』の説話「絵仏師の執心」と芥川が描いた「地獄変」を読み比べ、どんなところが同じで、どんなところが違うかを話し合おう。
- 芥川は「絵仏師の執心」を小説化するにあたってどんな工夫をしたか、「二」で話し合った違いをもとに考えよう。

本書で学ぶ古文の基本単語

◎ 脚注欄に掲げた、教科書の本文理解のうえでかぎとなる単語に、簡単な解説を付した。
◎ 助詞・助動詞、また補助用言の類は省いた。

◎ 品詞に関する略号は以下のとおりである。
名 名詞 代名 代名詞
形 形容詞 形動 形容動詞
連体 連体詞 接続 接続詞
動 動詞
副 副詞
感 感動詞

あ行

あかし「形ク①「明かし」明るい。②「赤し」赤い。
あさまし「形シク①ただ驚くばかりだ。②もつてのほかだ。③(あきれて)情けない。興ざめた。④みすばらしい。⑤あさはかだ。
あさむ「動四①意外な事実で驚く。②「浅む」あなどる。ばかにする。
あし「悪し」「形シク①悪い。②不快だ。不都合だ。③(技術などが)まずい。下手だ。④(容姿・身分などが)卑しい。みすばらしい。⑤(天候などが)荒れ模様だ。⑥(性格などが)荒々しい。
あした「朝」名①朝。②明くる朝。
あながちなり「強ちなり」「形動①強引なことだ。②ひたむきだ。いちずだ。③あまりのことだ。
あはれa「感動したり驚いたりするときに発する言葉。ああ。b」名①喜び・悲しみ・苦しみなどの感情。②しみじみとした感情を呼び起こすような風情。情趣。

あはれがる「動四「あはれ」と思う。「あはれ」と思う気持ちを表面に表す。
あひぐす「相貝す」「動サ変①一緒に伴う。②夫婦になる。
あへて「敢へて」副①強いて。思い切つて。②(下に打ち消しを伴って)少しも決して。
あへなし「敢へなし」形ク①手の施しようがない様子。がっかりした様子。②あつけない。
あまた「数多」副①数多く。②非常に。
あやし「形シクa」怪し①霊妙だ。神秘的だ。②珍しい。③不審だ。④異常だ。
b「賤し」①卑しい。身分が低い。②見苦しい。粗末だ。
あやしむ「動四「怪しむ」不思議に思う。怪しむ。
あやふげなり「形動「危ふげなり」危なく見える様子。危なそうだ。
あらがふ「動四①争う。②反論する。
あらはす「動四「表す・現す・顕す」①「隠れていたものを」はっきり見せる。②打ち明ける。
あらはなり「露はなり」「形動①隠れると

ころがなくまる見えである。②はつきりしている。③公然としている。
あらはる「現る・顕る」動下二①隠れていたものが表面に出る。②「隠していたことが」人に知られる。
ありがたし「有り難し」形ク①めったにない。珍しい。②実現が困難である。③おそれ多い。かたじけない。
ありく「歩く」動四①動き回る。②歩く。外出する。
あんのごとく「案のごとく」連語「思ったとおり。
いいうなり「優なり」形動①上品で優雅な様子。②風流な様子。
いかが「副①疑問を表す。どのように。②反語を表す。どうして。③ためらいや非難の気持ちを表す。どうだろうか。どうしたものか。
いかで「副①疑問を表す。どういうわけ。どうやって。②反語を表す。どうして。③願望の気持ちを表す。どうにかして。
いかなる「形容動詞「いかなり」の連体形」どのような。どういふ。

いかに「副①疑問を表す。どのように。②疑問を表す。どうして。なぜ。③程度の甚だしいさまを表す。どんなにか(…だらう)。さぞ(…だらう)。
いざたまへ「連語」さあいらっしやい。さあまいるましよう。軽い敬意をこめて勧誘する意を示す。
いたく「副①甚だしく。ひどく。②「打ち消しを伴って」たいして。それほどには。
いづち「代名」どの方向。どちら。
いづく「代名」不定称。どこ。どちら。
いと「副①非常に。たいそう。②全く。
いとほし「厭はし」形シク「嫌いな様子。いやだ。
いとふ「厭ふ」動四①いやがる。嫌う。②避けて身を守る。③いたわる。
いとほし「形シク①気の毒だ。かわいそう。②いじらしい。かわいい。
いとほしがる「動四「気の毒がる。かわいそうに思う。
いぬ「往ぬ・去ぬ」動サ変「行ってしまふ。去る。
いふかひなし「言ふかひなし」連語①

言ってみてもしかたがない。②問題にならない。つまらない。③ふがいない。
います「動四または動サ変①「あり」の尊敬語。いらっしやる。②「行く」「来」の尊敬語。いらっしやる。おいでになる。
いみじ「形シク①甚だしい。なみなみでない。②優れている。すばらしい。③たいへんうれしい。④たいへんだ。ひどい。かわいそうだ。
いらふ「答ふ」動下二「答える。
うづむ「埋む」動四「埋める。
うるはし「麗し美し」形シク①立派で美しい。②よく整っていて端整である。③人柄が律儀で誠実である。④改まっている。⑤仲むつまじい。⑥正式である。本物である。
うるふ「潤ふ」a「動四「うるおう。湿っぽくなる。b」動下二「うるおす。
えもいはず「連語」程度が甚だしくて(言葉で言い表せない。
おきつ「掬つ」動下二①予定する。計画する。②処置する。③命令する。
おくす「臆す」動サ変「気おくれする。
おとなし「大人し」形シク①おとなびている。②年輩だ。③穏やかだ。
おどろく「驚く」動四①びつくりする。はっとする。②目を覚ます。
おのが「連語」自分の。
おのづから「副ひとり」自然に。
おのれ「己」代名①自分自身。②自称。わたし。改まった気持ちのときに用いることが多い。③対称。おまえ。目下に対して、また、相手ののしるときに用いる。

おはします「動四①「あり」の尊敬語。いらっしやる。②「行く」「来」の尊敬語。いらっしやる。おいでになる。
おはす「動サ変①「あり」の尊敬語。いらっしやる。②「行く」「来」の尊敬語。いらっしやる。おいでになる。
おびたし「形シク①程度がものすごくい。②数量がものすごく多い。
おほかた「副①一般に。おしなべて。②ひととおり。③(打ち消しを伴って)全く。④そもそも。だいたい。
おほきなり「大きなり」形動①大きい。②程度が甚だしい。
おほしめす「思し召す」動四「思ふ」の尊敬語。お思いになる。お考えになる。
おほす「仰す」動下二①命じる。②「言ふ」の尊敬語。おっしゃる。
おほせらる「仰せらる」連語①お命じになる。②「言ふ」の尊敬語。おっしゃる。
おぼろなり「形動「ぼんやりとかすんでいる様子。
おれ「代名①自称。わたし。②対称。おのれ。相手をののしつて言うときに用いる。
おろかなり「疎かなり愚かなり」形動①おろそかだ。いかげんだ。②表現が足りたりでつまらない。③未熟だ。下手だ。④賢くない。
か行
かうぶる「被る」動四「いただく。受ける。承る。
かがりなし「限りなし」形ク①果てしな

い。限界がない。②最高だ。
かく「副」このように。こういふふに。
かくてa「副」こうして。b「接続」それから。こうして。
かのごとく「連語」このようにして。
かこし「形クa」畏し・恐し①恐ろしい。②おそれ多い。b「賢し」①賢明である。②技能に優れている。③すばらしい。④運がよい。⑤都合だ。⑥甚だしい。
かたし「形クa」堅し・固し①堅固でしっかりしている。②厳しい。b「難し」むずかしい。容易でない。
かたち「形容詞」名①形状。姿。かっこう。②容貌。容姿。
かたらふ「語らふ」動四①語り合う。②親しく交際する。③男女が言い交わす。
④説得する。自分の仲間に引き入れる。⑤相談する。頼み込む。
かなし「形シクa」愛し①身にしみていとおい。②心にしみておもしろい。b「哀し悲し」①身にしみてあわれだ。②悔しい。残念だ。
かまふ「構ふ」a「動下二①準備する。計画する。②組み立てる。設置する。③身構える。注意してふるまう。b「動四」関わる。関係する。
かんず「感ず」動サ変①感動する。②感心して褒める。③ある行為に対する神仏の報いが現れる。
きこしめす「聞こし召す」動四①「聞く」の尊敬語。お聞きになる。②「食ふ」「飲む」の尊敬語。召し上がる。③「治む」「行ふ」の尊敬語。お治めになる。
きこゆ「聞こゆ」動下二a「聞こえる。

きらきら「形シク①きらきらと輝いている様子。②輝くばかりに美しい。③威厳がある。立派である。
ぐす「貝す」動サ変①備わる。②備える。③連れ立つ。従う。④伴う。連れて行く。
けしき「気色」名①様子。顔つき。表情。態度。そぶり。②機嫌。好意。③意向。考え。④兆候。
げに「副①本当に。確かに。②賛意を表す語。なるほど。
けはひ「気配」名①なんとなく感じられる様子。雰囲気。風情。②「確認できないものから伝わってくる」音・香り、においなど。③感触。④(外面の立ち居ふるまいから感じ取られる)人柄・品格。⑤亡き人の面影。名残。
こごち「心地」名①気持ち。気分。②心。③様子。感じ。④気分のすぐれないこと。病気。
こころう「心得」動下二①理解する。悟る。②心の準備をする。③深くわきまえる。④承知する。引き受ける。
こころにくし「心憎し」形ク①心が引かれる。おこゆかしい。②興味を引かれる。③恐ろしい。④怪しい。
こころばへ「心ばへ」名①気だて。性質。②意味。意向。事情。③趣。風情。
ことやう「異様」名「普通でないこと。変わっていること。
ことわりなり「形動もつともだ。道理に

覚えておきたい故事成語

臥薪嘗胆

屈辱を晴らして目的を達するために、苦勞を重ねること。
夫差讎を復せんと志し、朝夕薪中に臥し、出入するに人をして呼ばしめて曰はく、「夫差、而越人の而の父を殺せしを忘れたるか。」と。勾踐国に反り、胆を坐臥に懸け、即ち胆を仰ぎ之を嘗めて曰はく、「女会稽の恥を忘れたるか。」と。

夫差は復讐を決意し、朝夕薪の上で寝起きし、部屋に出入りする人にこう言わせた。「夫差よ、おまえは越の人間がおまえの父を殺したのを忘れたのか。」と。勾踐は国に帰ると、苦い肝を寝起きする部屋につき、寝起きするたびに肝を仰いでなめて言った。「おまえは会稽で受けた恥を忘れたのか。」と。

〔十八史略〕より



四面楚歌

周りが敵や反対者ばかりで、味方がいないこと。

項王の軍、垓下に壁す。兵少なく食尽く。漢軍及び諸侯の兵、之を囲むこと数重なり。夜、漢軍の四面皆楚歌するを聞き、項王乃ち大いに驚きて曰はく、「漢、皆已に楚を得たるか。是れ何ぞ楚人の多きや。」と。

楚の王項羽の軍は垓下に城壁を築いて立て籠もった。兵力は少なく食糧も尽き果てた。漢の軍や諸侯の軍が、この城壁を幾層にも包囲した。夜になり、漢の軍が四方で皆楚の国の歌を歌っているの聞き、項羽は大いに驚いて言った。「漢はもう楚の国を全部占領したのか。なんと楚の人が多いことか。」

〔史記〕より

完璧

欠点や不足が一つもなく、非常に優れていること。

臣願はくは、璧を奉じて往きて使ひせん。城趙に入らば、璧は秦に留めん。城入らずんば、臣請ふ、璧を完うして趙に帰らん。

私に璧を奉じて行かせてください。都市が趙のものになったら、璧は秦に置いていきましよう。都市が手に入らなければ、私は璧を無傷のまま持ち帰りましよう。

〔史記〕より

杜撰

手を抜いたところが多く、いかげんな様子。

杜撰詩を為るに、多く律に合はず。故に事の格に合はざる者を言ひて杜撰と為す。

杜撰は詩を作ったが、詩の規則に合わないものが多かった。そこで、物事の規則に合わないものを杜撰（杜が作ったもの）と言うようになった。

〔野客叢書〕より

推敲

文章や詩を書くときに、最適な字句や表現を考えて練り上げること。

鳥、拳に赴きて京に至る。驢に騎りて詩を賦し、「僧は推す月下の門」の句を得たり。推を改めて敲と作さんと欲す。手を引きて推敲の勢ひを作すも、未だ決せず。覚えずして大尹韓愈に衝たる。乃ち具さに言ふ。愈曰はく、「敲の字佳し」と。遂に轡を並べて詩を論すること、之を久しくす。

賈島は科挙の試験を受けるため都へやってきた。驢馬に乗って詩を作り、「僧は推す月下の門」という句を思いついた。「推す」を「敲く」に改めようかと思

い、手で押す動作や叩く動作を試してみたが、まだ決まらなかった。そのうち、うっかり都の長官韓愈の行列に衝突してしまっ。そこで賈島は韓愈に事情を詳しく話した。韓愈は「敲く」の字のほうがよい。」と言った。そのまま二人は馬を並べて長い時間詩を論じ合いながら行った。

〔唐詩紀事〕より



呉越同舟

仲の悪い者どうしが一緒にいたり、一緒に行動したりすること。

夫れ呉人と越人と相悪むも、其の舟を同じくして洩りて風に遇ふに当たれば、其の相救ふや左右の手の如し。

そもそも呉の国の人と越の国の人とは互いに憎み合う間柄だが、同じ舟に乗り合わせて強風に遭ったなら、右手と左手の関係のように互いに助け合うものだ。

〔孫子〕より

矛盾

つじつまが合わないこと。

楚人に楯と矛とを鬻ぐ者有り。之を嘗めて曰はく、「吾が楯の堅きこと、能く陷すも莫し」と。又其の矛を嘗めて曰はく、「吾が矛の利きこと、物に於て陷ざる無し」と。或ひと曰はく、「子の矛を以て、子の楯を陷さば何如」と。其の人応ふること能はざるなり。

楚の人に、楯と矛とを売る者がいた。その楯を自慢して、「私の楯は堅く、どんなものでも貫き通すことはできません。」と言った。次に、矛を自慢して、「私の矛は鋭く、どんなものでも貫き通すことができます。」と言った。するとある人が、「あなたの矛で、あなたの楯を貫いたらどうなるのか。」とたずねた。その人は答えることができなかった。

〔韓非子〕より



他山の石

他人のよくない言行も、自分を磨くための助けになるということ。

他山の石、以て玉を攻むべし。

よその山から出た粗悪な石でも、砥石として使えば自分の宝玉を磨いて美しくするのに役立てることができる。

〔詩経〕より

断腸

こらえきれないほど、悲しみ苦しむこと。

桓公、蜀に入り、三峡の中に至る。部伍の中に猿子を得る者有り。其の母岸に縋りて哀号し、行くこと百余里にして去らず。遂に跳りて船上り、至れば便即ち絶ゆ。破りて其の腹の中を視れば、腸皆寸寸に断えたり。公、之を聞きて怒り、命じて其の人を黜けしむ。

桓公が蜀に攻め入り、三峡までやってきた。部隊の中に猿子をつかまえた者がいた。その母猿は岸を伝いながら泣き叫び、百里余り進んでも立ち去らなかつた。とうとう船に跳び上がり、子猿のもとに着くとすぐに息絶えた。母猿の腹を裂いて中を見ると、腸がずたずたにちぎれていた。桓公はこの話を聞いて怒り、その者を罷免するよう命じた。

〔世説新語〕より

破天荒

今まで誰もなしえなかつたことをすること。

唐の荊州は衣冠數沢し、毎歳挙人を解送すれども、多く名を成さず。号して曰はく、「天荒解」と。劉蛻舎人、荊の解を以て及第す。号して「破天荒」と為す。

唐の荊州は官吏出身者が多く、毎年解試という地方試験を行って合格した者を中央の進士の試験に臨ませていたが、合格者がいなかった。そのため荊州からの受験者は「天荒解（未開の地の受験者）」と言われた。やがて舎人の劉蛻が荊州から送り出されて初めて合格した。そこで劉蛻は「破天荒（天荒を破った）」と呼ばれた。

〔北夢瑣言〕より

次の言葉も、中国の古い書物に由来をもつ故事成語です。辞書等で意味や由来を調べてみましょう。

- 温故知新 ● 大器晚成 ● 五十歩百歩 ● 馬耳東風 ● 蛇足 ● 守株
- 漁夫の利 ● 背水の陣 ● 螢雪の功 ● 羊頭狗肉 ● 助長 ● 登竜門



指導書

本体価格一五、〇〇〇円（税別）

指導資料

教材研究に役立つ資料や、実際の授業や評価で活用できる情報を豊富に掲載しています。

発問例集

指導資料に掲載した発問をまとめたデータを収録しています。

ワークシート

• 学びの道しるべシート • 構成・内容理解シート • 古文品詞分解シート

基本テスト

短時間で基礎を養う小テスト。現代文編では漢字や語句、古文では文法、漢文では句法などについて出題します。

評価問題

定期考査などに使える問題を、各教材、難易度別に複数収録しています。

補充教材

教科書の教材に関連する資料や、発展的に読むことができる作品などを収録しています。

教科書原文

教科書教材文の原文データを収録しています。

教師用教科書

教科書の紙面に、文章構造や要約、口語訳や文法の解説、「学習の手引き」の解答例など、授業に役立つ情報を青字で刷り込んだものです。

指導書別売品

教師用教科書

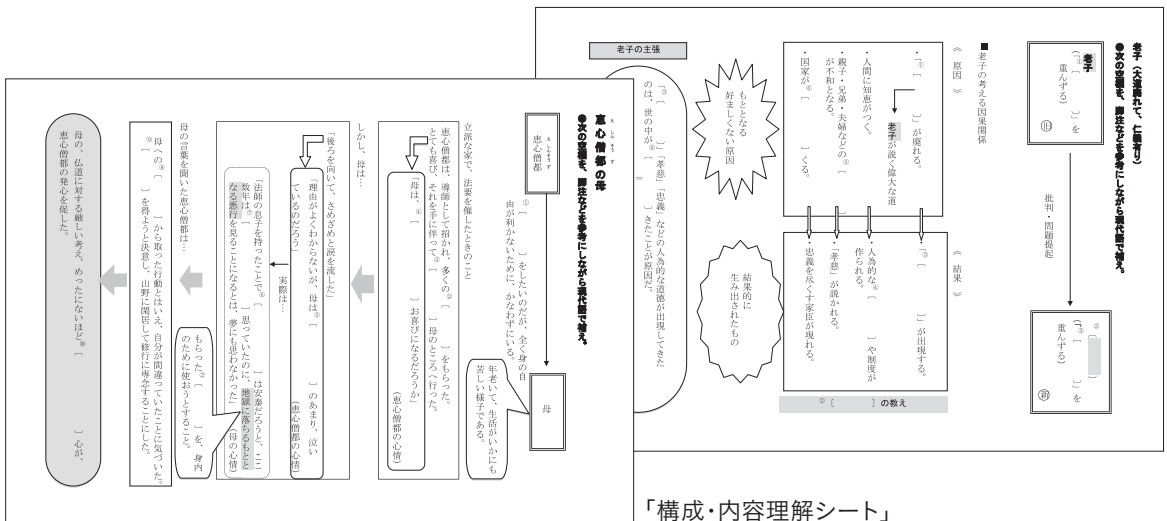
本体価格四、五〇〇円（税別）

指導書の「教師用教科書」と同じものです。

指導資料PDF版

本体価格四、五〇〇円（税別）

指導書の「指導資料」の紙面をPDFデータにしたものです。





デジタル教科書 指導者用デジタルテキスト

はじめに

- 教科書の内容を最大限に活用すること
デジタルテキストでは、教科書本文の拡大提示、付録や図版資料のインデックスおよびその拡大提示など、教科書の内容を提示用の素材として、最大限に活用することをコンセプトに制作いたしました。
- CoNETSビューア
平成29年度版からは教科書会社12社が参画して開発した共通プラットフォームCoNETSビューアでのご利用になります。
▶CoNETSについて (<http://www.conets.jp/>)
CoNETSビューアでは、先生ごとにユーザーを登録することで、書き込み情報や履歴などをそれぞれに保有することができます。



※画面サンプルはすべて「精選国語総合」となっております。

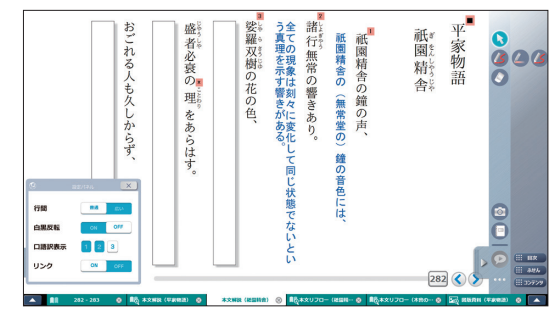
三省堂は、CoNETSプラットフォームを通じてデジタル教科書を提供してまいります。

指導者用デジタルテキスト 〈校内フリーライセンス〉※1			
OS	ライセンス期間	価格	インストール方法
Windows版	教科書利用期間一括※2	40,000円+税	DVD-ROM / ダウンロード
学習者用デジタルテキスト 〈1端末1ライセンス〉※3, 4			
OS	ライセンス期間	価格	インストール方法
Windows版 / iOS版	教科書利用期間一括※2	1,500円+税	ダウンロード

※1 校内のすべての端末にインストール可能です。なお、価格は1学年の価格です。
 ※2 収録されている検定教科書の使用期間中はご利用いただけます。
 ※3 教師用デジタルテキスト購入校のみ購入できます。
 ※4 インストールする端末(1端末)ごとにライセンス料金をお支払いいただけます。

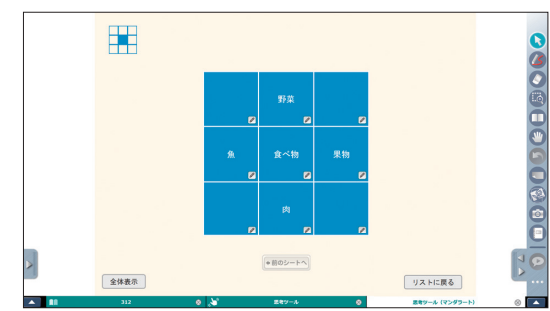
指導者用 豊富なコンテンツで授業をサポート

■ 本文解説



本文の口語訳のon/offができます。マスクをはがしながら表示することもできます。

■ 思考ツール



デジタルテキストオリジナルのコンテンツも多数収録しています。

■ コンテンツ一覧



「フラッシュカード」「図版資料」「人物相関図」など、さまざまなコンテンツを収録。

■ オンライン辞書



授業での提示に特化した指導者用の辞書サイトをデジタルテキストのリンクからご利用いただけます。

● 動作環境 指導者用 (2017年4月現在)

Windows版	
OS	Windows 7 SP 1 / Windows 8.1 / Windows 10 (32bit / 64bit 対応)※1
ブラウザ	Internet Explorer 11
CPU	Intel Core i3以上推奨
メモリ	4GB以上
空き容量	4GB以上(ビューア1GB+教材3GB)
モニタ	True Color (32bit)※2
その他	.NET Framework 4.5以降 Aero設定: ON ※2

※ Microsoft, Aero, Internet Explorerおよび Windowsは、米国 Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 ※1 Windows RTには対応していません。
 ※2 Windows 7の場合のみ。

動作環境や導入にあたっての条件等は、CoNETSのWebサイトにて最新の情報をご確認ください。 <http://www.conets.jp/>

学習者用デジタルテキスト についての特徴や動作環境など、その他詳細な情報は三省堂教科書・教材サイトをご覧ください。
 ●体験版DVD-ROMのお申し込みはeメールにてご連絡ください。
 eメールアドレス: info-tbdt@sanseido-publ.co.jp

★三省堂教科書・教材サイト
<http://tb.sanseido.co.jp>

